

仮名字体沿革一覽

これは、大矢透『仮名遣及仮名字体沿革資料』のうち、後半の「仮名字体沿革一覽」の複製です。底本には福井大学蔵本を使用しました。インターネット上の公開に理解を示して頂き、感謝しています。原本は菊版の四倍(A3相当)の本であり、その左右見開きに表がある(A2相当)のでこれをそのまま複製するのは困難です。そこで、真ん中あたりの十行のところを二つに分けてスキャンしました。張り合わせる手間を惜しんだので、十行の「ぬね」あたりがダブっているをお許しください。

本編も複製しようと考えたのですが、カラーで骨が折れますので、途中でへばってあります。フラットスキャナから読み込むよりも、上手に写真を撮ってフィルムスキャナから読み込む方が良いのではないかと思います。

なお、著作権関係のことを言いますと、大矢透翁は一九二八年に没しています。また刊記に「著作権者 帝国学士院」とありますが、団体名義の場合の著作権は発表後五十年ですから、「不許複製」の文字も効力は残っていないものと思われまます。また、勉強社が、『仮名遣及仮名字体沿革資料』の複製本を出しているようですが、このファイルは勉強社複製本とは全く関係無いものであります。

一九九九・六・四 岡島昭浩

この部分の凡例

一 巻尾附する所の假名字體一覽を本書中の假名は勿論従来蒐集する材料中より年代の確かなる假名を年次よりして排列せしむる。但し第一圖中の天安二年の大智度論以上より排列せしむるは皆年代詳らちらざるを敢て之に擧げざるのハ之を大智度論の假名と比較して必ずその以上のもの、如く思ふべきがうづに、いづれも假名の形體未だ定らばして最々餘り假名發生の状況を示すに適切なるものもあはれ而してその次第を假名の字體の難易等によりて前後を定められど固より臆定を後來時代確かなるもの出で、その次序の不順を發見すべしとあはれし。また右の附圖中擧ぐる所の假名ハ、編者一人の目より觸れしものにて過々もれを固より古今の假名の體を盡したるものならず、且平安朝中葉よりその材料漸く多く、殊に鎌倉時代以後に至りては到底悉くいかにあつてもいはずを故に品類と年代とよりて、大よ之を沙汰し僅々に十の一を採れしに過ぎたり。

刊記

明治四十二年三月廿七日印刷
 明治四十二年三月三十日發行

著作権者 帝國學士院
東京市日本橋區新石衛門町十六番地

發行者 會社國定教科書共同發賣所
東京市日本橋區新石衛門町十六番地

代表者 大橋新太郎
東京市神田區千代田三番地

印刷者 江川八左衛門

發行所 東京市日本橋區新石衛門町十六番地
 會社國定教科書共同發賣所

不許複製

Table with 10 columns: 行奈, 行波, 行末, 行也, 行良, 行和, 音撥. Rows contain various characters and symbols.

Table with 10 columns: 行奈, 行多, 行佐, 行加, 行阿, 書け, 用人名, 原木の, 書名, 用名, 代し用. Rows contain names, dates, and other text.

Vertical text on the right margin, possibly a list of names or dates, with yellow highlight boxes.

